

Y. K. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私は高校三年生の時、自分がしたいことがはっきりと決まっていませんでした。そのため志望校を決める際も英語が好きということだけで特に切望する学部なども無く、漠然と受験勉強をして、同志社女子大学に入学することになりました。大学では、英文学を学ぶのと並行して英語について学ぶことが多く、私はこのようなことが学びたかったのかと疑問を抱くようになりました。自分が曖昧にでも描いていた大学生活とは程遠い現実には落胆し、一回生の夏頃には編入学か留学を強く意識するようになりました。その中で私が留学を選んだ理由はもし編入学したとしても私はきっと満足しないだろうと考えたためです。高校三年生の時に学びたいことが見つからなかった私が日本のほかの大学に行ったとしても何も変わらないだろうと考えました。私の父と姉も大学生のころに留学を経験していたため、家族に反対されることも無く家族全員が留学を応援してくれました。しかし留学に行くのであれば今まで以上に勉学に勤まなければならないと注意を受け途中何度か挫折しそうにもなりました。そんな時に支えてくれたのは大学の友人でした。私は今回の協定留学が生まれて初めての留学でしたが、周りの友人の中には高校生の頃に留学を経験している子が何人かいました。彼女たちの留學生活を聞くたびに私もここで頑張ればきっと充実した大学生活を送れるであろうと信じ、頑張ることが出来ました。二回生になってからは留学をするためにアルバイトをして貯金をする傍ら英語の勉強と大学の授業もあり、一年がとても早く過ぎて行きました。アルバイトをしている塾の生徒や先輩、同期からも試験や面接の度に応援をしてもらい、期待を裏切らないようにこれまで以上に頑張ろうと思う事が出来ました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学受験が終わってからも、大学受験の際に使用していたシステム英単語は常に持ち歩いていました。またアルバイト先で大学受験用の様々な大学の過去問を毎週解いていたためか文章読解にかかる時間は問題ありませんでした。大学一回生時に授業内で扱われていたワードエンジンもしっかりと勉強していました。一度間違えた単語はノートにメモし覚え直してから何度も何度も繰り返し取り組みました。ワードエンジンなんてくだらないという友人もいましたが、授業料としてお金を払っている分利用できるものはなんでも利用しておいた方がいいと思います。他にも様々な単語帳を購入しましたが、何冊にもわたって勉強するよりも1, 2冊に絞って繰り返すことによる暗記法の方が効率的だと思いました。イギリスへの留学の場合、IELTS か TOEFL ですが私は IELTS 用の対策を行いました。それは現地ではイギリス英語が使われているのだから今のうちからイギリス英語に触れてお

こうと考えたためです。これまでアメリカ英語に触れることが多かったためイギリス英語に慣れるまでは少し時間がかかりました。特に大変だったのはリスニングです。文章を見ながらだと理解できるものが耳だけだとなかなか聞き取れない、の繰り返しでした。日ごろから BBC やイギリスの海外ドラマ(ダウントン・アビーやシャーロックホームズなど)、イギリス人が出ている映画(ハリポッターシリーズなど)を通して耳を慣れさせました。完全に聞き取れるようになったのは実際にイギリスに着いてからでした。日本にいるうちに全てが聞き取れないからといって焦らなくても大丈夫だと渡英してから気付きました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは毎日 BBC を聞いたり、リスニングに役立つことは続けました。しかし、その他特にした英語の勉強はありません。三回生の春学期は貯金のため毎日アルバイトをしていました。生徒の中には英検や TOEIC を受験する子がいたりしたので、その対策をするくらいしかしていませんでした。現地大学では映画学を学ぶ予定だったのでそれに関する入門編のような読みやすそうな本は読んだりしました。各科目のシラバスに前学期に使用したテキストや資料が書かれているため目を通しておくと良いと思います。正規授業が始まってからは毎週 100~200 ページ近く読んでくるという課題が出る授業もあるので正規授業が始まる前に図書館で本を読み漁るか、それに関する基礎知識は付けておくとなお良いと思います。ビザ申請は自分でも出来ると言われましたが、失敗せずにやりたかったため業者に依頼しました。ビザが下りるまでメールや郵送がメインで本当に大丈夫なのか心配になりましたがきちんと出来ました。申し込みからすぐにビザが下りるわけではないので大学側からの説明があり次第、すぐに資料請求などを進めておくべきです。この頃に平行して受講したい科目を調べたりしてしていました。分からないことだらけで前年リーズ大学に留学していた先輩にアドバイスをもらいながら決定しました。この時点で決めた科目から現地についてからも変更は可能なため、実際に授業を一度受けてクラスの印象などから、私は出国前に決めた科目を全て変更しました。自分が入る寮も決めなければならず出国ぎりぎりまでしなければならぬことがたくさんあったような気がします。分からない点については大学にメールをすれば親切に教えてもらえるので特に大きな心配事はありませんでした。

④ 現地到着後

私は成田空港からヒースロー空港を経由してリーズブラッドフォード空港へ向かいました。全ての飛行機が遅れ到着まで計 23 時間かかりました。オリエンテーションは語学学校が始まる二日前からで、寮が使えるのはその日からだったのでリーズに到着した日はオリエンテーションの三日前でリーズのホテルに滞在しました。リーズブラッドフォード空港からホテルまでの移動手段はタクシーでした。空港にあるタクシーは予約制のために窓口にて先払いでした。私がこれまで海外でタクシーに乗るときは毎回乗車後のお会計だったため、

少し不安になったのを覚えています。他の友人たちはロンドンから電車で来ていたりしました。その方が費用は少し安くはなりますがややこしかったとの意見も耳にしました。イギリスに慣れるまでは電車やバスはあまり使いませんでした。オリエンテーション初日には様々な国からの留学生が一つの寮の庭に集まり、様々な人とお菓子を食べたり話をする機会がありました。そこで他大学から来ている日本人と知り合い情報を交換したり、クラスメイトとなる他国の人たちと関わる事が出来ました。リーズ大学の現役の学生が寮をまとめており、キャンパスツアーやいろいろなことを教えてくれたり、困った時には助けられました。様々な寮で火災報知機が何度も鳴ると言うことが度々あり、寮をまとめる学生さんによく怒られました。初めは友達が出来るか不安もありましたが、二か月ほど同じ寮やクラスにいと問題なくいろいろな人たちと自然と打ち解けられました。わずらわしい諸手続きなども特になく、スムーズに語学研修を受けられました。中国やブラジル人が手続きに追われて大変そうでしたが、日本人は誰も困っているとは聞きませんでした。

⑤ 語学研修期間

◆語学研修先の施設・環境について

語学研修は主に ziff building と呼ばれる建物内で行われました。教室には自由に動かせる長机と椅子があり、先生によって並べ方は異なりました。また座り方などは特に指定がなかったため仲良くなった外国人と並んで座ることが多かったです。そこで何度も同じグループとなってグループワークを行った仲間たちとは正規授業が開始した後もよく出掛け、帰国してからも連絡を取り合うほど仲良くなりました。教室には同志社女子大学にもあるようなホワイトボードとスクリーンが設置されていました。主な授業は discussion だったためノートを取るというようなものではありませんでした。7月からのコースでは最初にクラス分けなどなく、私のクラスには4月からの受講生の日本人2人、残り十数名がすべてブラジル人でした。初めは4月から留学している日本人は日本人で、ブラジル人はブラジル人で固まっており、正直語学研修が嫌いでした。しかし、一度ブラジル人の一人と打ち解けるとみるみる友達の輪が広がり、語学研修の仲間が大好きになりました。

◆授業内容、課題、試験

授業では reading, writing, listening, discussion が主に一週間で取り扱われており、基本的に一日3コマの9時スタート 15時終わりという時間割でした。私の場合は正規授業の時間割よりもタイトな時間割でした。授業は平日毎日あり、たまに午後から講演を聞き、ノートにまとめて提出ということもありました。課題は先生や授業によって異なりますが、イギリスもしくはブラジルの大事なサッカーの試合があると(先生がその試合を見たいから採点できないという理由で)課題は出ませんでした。毎日お昼は外で食べなければならなかったため、朝早起きしてお弁当を作って持っていったりしました。8月の最後に大きな試験があり、それに向けての小さな確認テストみたいなものが何度かありました。3年間リー

ズ大学で学ぶ中国人はこの **final test** で合格しなければ正規授業が受けられないとのこと
焦っていましたが、日本人とブラジル人は1年以内の留学だったためか落ち着いていま
した。

⑥ 正規科目履修期間

◆大学の施設・環境について

リーズ大学と同志社女子大学の大きな違いは二つあります。一つは大学内の図書館が深夜
0時まで開いているところです。試験前だと自習ブースはほぼ空いていません。もう一つ
の違いはコピーについてです。正規授業で用いられる資料は授業の朝に初めて **online** でみ
られるようになります。授業内でレジユメが配布されるということはまずありません。その
ため授業前に図書館へ行き、レジユメを印刷しなければとてつもない量のレジユメをイギ
リス人と聞き流すだけの授業になってしまいます。また、コピーは一人の学生にあらかじ
めある程度のコピー代がチャージされており、足りなくなれば自分でチャージするという
ものでした。全科目の資料を印刷してしまうとチャージしてもすぐになくなってしま
うので面倒でした。

◆履修科目

渡英前にした仮登録から全科目変更は可能です。一度授業に参加してから自分にあっ
ているのかどうか確かめておくのが安心です。しかし、現地に到着してからの変更は
自身で教授に連絡して了承を得て、必要であれば(教授がしてくれなければ)**office** に
変更を申し出ないといけなかったので面倒でした。私は以下の4つの科目を履修しま
した。

• **introduction to psychology**

これは心理学の入門とシラバスに書かれていましたが、実際は入門～中級くらいのレ
ベルです。单元ごとに教授が異なり神経学といった様々な分野まで学びます。週に1
時間の授業でしたが **Reading** の課題は週に必ず100ページ以上は出ます。ただ、全
くの初心者だとこの課題では知識不足でついていけません。

• **film music**

この授業は音楽学部の授業で行われ教室には常にたくさんの楽器があり、映画で用
いられた **sound** がどのような影響を持っているのかを教授が実際に楽器を使って説
明してくれます。基本的に **discussion** がメインでグループプレゼンなどの準備もあ
り大変でしたがとても楽しい授業でした。

• **Food: Origins and Forms**

栄養学初心者の私でも理解できる栄養学入門の授業です。この授業も様々な教授
を招いて行われました。暗記物が多かったのですが食べ物の知らないことをたく
さん学べたので苦ではありませんでした。

• **Managing Festivals and Events**

イベントを提案するというこの授業は教室内に机がない特殊な教室で行われました。自分から意見を先生にぶつけなければ授業は進まず、全員に発言権がありました。定期的にプレゼンの課題が課されたり大変な授業でした。

◆授業、レポート、定期試験

私が履修した科目では Managing Festivals and Events 以外全て試験がありました。Psychology は final exam が 100% で出席点などありません。Film music は毎週 500 字程度の essay と 4000 字の essay が二つ、group presentation が課されます。Food は中間、期末テストに加えオンラインの練習テストなどがありました。私は就活のため final exam は日本で受験しましたが中間テストも期末テストも簡単なものではありませんでした。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

部活動ではなくサークルのような Society というものに参加しました。日本が好きだったり、日本語を学んでいるイギリス人と交流できる Japanese society に所属はしていませんでしたがハロウィンなどのイベントに参加したりしました。当たり前ですが society にはイギリス人より日本人が多数を占めており、あまり英語を話す機会はありません。Language partner を見つけて時間があるときに話をしたり出かけたりして何人かのイギリス人と仲良くなれました。また映画が好きだったため film society にも参加しました。語学研修で仲良くなった友達と参加することで授業が異なっても定期的に顔を合わせて近況報告が出来ました。学内にミニシアターと呼ばれる映画を見るだけの教室があり、映画館のようなシートで映画を見られました。映画が好きな人だけでリーズの町にある映画館にたまに行ったりもしました。現地でアルバイトをしていた友達もいましたが、課題をする時間がないと困っているようでした。リーズ大学日本語学科の学生と discussion をするためにボランティアへの参加が数回呼び掛けられましたが授業と重なることが多く参加することが出来ませんでした。

⑧ 現地での住まい

渡英前に希望の寮をメールで決定しました。7月からの語学研修者は2つの寮から選べ、費用が高いけれど全てがそろっている寮を選びました。語学研修の際に利用していた St. Marks は寮費がとても高かったけれど洗濯機も各フロアに付いており、トイレとお風呂も自室に付いていて使い放題でした。快適で自室からでなくてもよかったためあまり寮生と交流することはありませんでした。キッチンや廊下で会ったときに挨拶をする程度でした。その寮は女性専用でワンフロアに2つの寮があり一つ9人で使用しました。日本人2人にサウジアラビア人1人、中国人と台湾人韓国人が合わせて6人もおりいつもキッチンから強烈なおいがしていました。いつも中国語が飛び交っていてあまり英語を話す良い環境とは言えませんでした。語学研修に参加していたブラジル人は全員同じ寮の別のブロックに住んでおり、たまに彼らの寮で開かれるパーティーに朝まで参加してもいつでも自室に

帰られたのは良かったです。食事などは配給されず自炊をしていました。初めての自炊だったため分からないことがたくさんありましたが友達にたくさん助けられました。St. Marks から大学までは 10 分もかからないくらいで city centre までも 20 分ほどでした。セキュリティもとても厳しくて安全でした。正規授業が始まる前に Henry Price という寮に一度引っ越しをしました。こちらは学内の寮で St. Marks ほど綺麗でもなく快適とは言えませんが寮費は St. Marks の半分ほどでした。トイレとお風呂は同性の 2 人で共有しました。自室に付いていて快適すぎると寮生と関わらなくなってしまうのを防ぐためです。こちらもワンフロアに 2 つの寮があり、男女混合の寮を選びました。日本人が 3 人、アメリカ人フランス人スペイン人カナダ人オーストラリア人シンガポール人がいました。全員が自由で毎日朝まで賑やかでしたが慣れました。こちらも自炊の寮で教室までは最短 2 分で着きました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

語学研修中、語学研修後に 2 度長期休暇がありました。一つ目の bank holiday にはスペインに行きました。初めは 4 日間の滞在を予定していたのですが、飛行機が飛ばないという問題が起きて一日航空会社が用意してくれたリーズにあるホテルに滞在してからの出発になりました。イギリスからは LCC のような格安航空が出ているのでそれらを利用すれば安く行けたはずですが、その時期はもうフライトが残っておらず仕方なく普通の航空会社を利用して行きました。スペインに行く前にスペイン人とスペインに行ったことのある留学生のお勧めを教えてもらってから行きました。私は 7 月初めに日本を出国し、イギリスでも汗をかくほどの夏を味わえなかったのが温かいスペインは天国のようでした。有名な観光名所は全て周り、またスペインの FC バルセロナの試合を見に行きました。サッカーの知識はあまりありませんでしたが現地サポーターの熱気に感動しました。試合が終わって会場からホテルまでの帰り道を調べておらず、終電もなくタクシーも残っておらず深夜 2 時まで外でさまよったのは今となってはいい思い出です。スペイン人があまり英語を話してくれませんでした、そのおかげでスペイン語を勉強しようという気になりました。二つ目の休暇ではロンドン、オックスフォードに寄ってからイタリアへ行きました。このときは格安航空を利用したためスペインほどお金はかかりませんでした。イタリアはヴェネチアとロミオとジュリエットの舞台として知られているヴェローナへ行きました。ヴェネチアは観光客がたくさんいて日本語が飛び交っていました。一方ヴェローナは静かでとても美しい町でした。通りすがりのイタリア人はおちゃめな人が多く面白かったです。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

私はインターンシップのために正規授業後の休暇を取らずに一か月帰国を早めました。必ずしも参加しなければならなかったわけではありませんが去年同じ時期にリーズ大学に留学していた人の話を聞くとスタートが遅れてしまったから後悔していると言われたため留

学でも就活でも後悔しないようにしようと決めました。正規授業後の休暇中は他の留学生たちも自国に帰ったりしていたため、残された日本人と旅行するのであれば、それまでに行きたいところへ行きインターンシップに参加しようと思いました。しかし12月までに私が行きたかった企業の説明会は全て終わっていました。現地で知り合った日本人の中には4回生での休学から留学していたひともいたため情報を教えてもらったりしていました。帰国後に受験する TOEIC の対策や SPI も教材を取り寄せて準備していました。その他にしていたのはマイナビなどの就活サイトに登録したりするくらいです。四季報を4回生の先輩たちと見ながら将来の話をしたりもしました。どうしても周りの友人たちが就活を始めているのに自分は行動できなくて焦ってしまいがちでしたが、何もできないので留学を楽しむことに専念しました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

最も思い出に残っていることは、誕生日にロンドンへ行ったことです。私の誕生日が土曜日だったのですが、その週の初めにロンドンに急きょ一緒に行ってくれる友達を見つけました。その子とは知り合って二週間も経っておらず、お互いに本当に仲良くなれるのか心配だと前の晩に話し合ったのをよく覚えています。0時になった瞬間に友達から祝ってもらい朝まで飲みながらバスの時間を待ちました。リーズからロンドンまではバスで4時間弱だったのですが、泥酔状態で長距離バスに乗ってしまい二人でバスに付いているトイレを取り合いました。ロンドンに着いてからもお酒が抜けず初めてのロンドンは二日酔いであまり観光などは出来ませんでした。日曜日にはフォートナムメーソンで少しリッチなアフタヌーンティーをしました。そのあとは大好きなオペラ座の怪人のミュージカルを鑑賞しました。タイムズスクエアで見たオペラ座の怪人とは曲調も歌詞も衣装も異なり、更に大ファンになりました。夜にはフォートナムメーソンで食べきれなかったおいしい軽食をホテルに持って帰ったのですが、移動中にぐちゃぐちゃになってしまい見た目がひどい夜食を食べました。その友達とはとても仲良くなり、その後スペイン、イタリア、イギリス各地を共に旅行しました。語学研修や正規授業が重い通りにいかないときも夜通し話を聞いてくれたり、その子が落ち込んでいるときにはお互いの寮に泊まりに行ったり来たりしました。彼女が帰国した翌日にもオールナイトでカラオケに行ったり今でも頻繁に連絡をとる一生大切にしたい友人の一人になりました。その子のみならず、この留学を通じて知り合った友人は皆いい人ばかりでした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

語学研修の Discussion の練習です。ほとんどのグループが日本人2人以上だったにもかかわらず、私のグループは中国人、ブラジル人2人と私という組み合わせでした。同じグル

一歩だった子たちは全員あまり練習せずに本番に挑むタイプだったので、練習に誘っても適当に済まされてしまいました。練習時には何も言わなかった子たちが先生の前だけすごく発言したりしていて圧倒されて何も言えませんでした。Discussion の後に先生からもらうコメントで一番ひどく言われ、授業後廊下にいた担任の先生の前で泣いてしまいました。その先生が泣き止むまでずっと話を聞いてくれ、たくさん励ましてくれました。周りにいたブラジル人たちが一緒に練習してくれ、放課後も毎日練習に誘ってくれて、その子たちと練習したおかげで本番は言い返すことが出来るようになりました。私が言い負かされた相手の友達がその子に成りすましてジョークを交えながらも絶対に負けを認めないことを学びました。日本ではきつく言われたら流されてしまっていた私が今では自分が正しいと思うときは意志を曲げなくなり、帰国してからは両親にも性格が変わったと言われるようになりました。Discussion をするにあたってその先生はとても厳しかったけれど、その先生じゃなければきっとあそこまで練習することも無かっただろうし、きつく言われたおかげで自分を変えられたので乗り越えられて本当に良かったと思います。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

一つ目はパーティーやパブに行く頻度です。私自身も留学前からお酒は好んで飲んでいましたが、外国人がテスト前などお構いなしに毎日お酒を飲んでいることに最初は戸惑いました。私が飲んでいなくとも隣の部屋からスピーカーを使って窓を開けて大騒ぎされると勉強どころではありませんでした。お酒を飲んで酔っ払うと寮内でタバコを吸って火災探知機が鳴って真冬の夜中3時に外に避難するということが日常茶飯事でした。勉強はできないし眠ることも出来ず、一度同じフロアの人に夜中迷惑をかけていないか尋ねられた時に正直に話し合いました。それから全員が起きているとは限らないし、テスト前の人もあるだろうからスピーカーを使う際は前もって連絡をするという決まりが出来ました。日本人はあまり自分たちの意見を言わないと思われがちですが、本当に困った時にはお互い腹を割って話し合わなければなりません。寮を出るころには同じ寮の人たちで飲むようになり、毎晩誰かしらが廊下で寝ているということも多々ありましたが、とても楽しい寮でした。二つ目はどこにでも物をおき、どこにでも座るという点です。留学に行くまでは、地べたに鞆やノートを置くのが嫌いでしたが、イギリスに行ってからはそのような小さいことなど気にしなくなりました。帰国してからもどこにでも鞆を置いてしまいそうになり両親によく注意されます。最後は時間についてです。留学に行くまでは、必ず約束の10分前行動を心がけていましたが、イギリスにいると誰も時間は守らなかったため遅刻癖がついてしまいました。就職活動前なので至急直さなければならない点です。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

協定留学で良かった点で私たちは単位を取らなければならないため、必死に授業に取り組めた点です。日本の他大学から留学していた休学留学の友人などは単位を取得しなくても構わないのであまり課題や試験などに真剣に向き合っている様子はありませんでした。その子たちと一緒に話していると私も同じようにしたいなどと考えた時期もありましたが、遊ぶためだけではなく真剣に留学先で勉強するのであれば休学留学ではなく協定留学の方が断然良いと思います。また、渡英直後に面倒な手続きが一切なかったことも良かった点です。

協定留学先のリーズ大学はいわゆるマンモス校であったため様々な科目を履修することが出来ました。小さな college などでは受講できないような科目を積極的に受講しました。悪かった点に関して言えば、幾分学生の数が多いため student office はいつも込み合っており、対応がとても遅かったです。いろいろな部署に回されるため締め切りなどがある際にはある程度の余裕を持って行動しなければなりません。メールは送っても返事が一週間は返ってこない上に、student office では分からないと言われることもしばしばありました。正規授業が始まれば現地の学生が増えるため町は潤いますが、語学研修期間はとても静かな町でした。正規授業が始まるにつれてマナーの悪い学生も増え現地人にかからかわれる日本人学生もいたため、注意が必要です。夜道のみならず、冬は 15 時を過ぎると暗くなってしまうので一人で外出は控えるべきだと思いました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは重たいけれど周りの友人全てが持参していました。授業で用いられる資料、レジュメは当日朝にみられるので早起きして図書館に印刷に行くのが面倒であれば ipad を持ち歩くのも一つの手だと思います。ipad はパソコンに比べ軽くて持ち運びにも困らなさそうだったので持っていた人が羨ましかったです。

正規授業が始まる前にレコーダーを持っていくと授業内で聞き逃した内容を自宅で復習できると友人に教わり急ぎで購入しました。しかし、授業中に個人が録音することは禁止されていました。大教室の授業であれば、教授自ら授業内容を録音して online に挙げてくれるので大丈夫だと思います。分からなければ直接教授に授業後聞きに行く、メールで appoint をとって後日聞く、もしくは隣近所に座っている学生に相談するなど手段はたくさんあります。どれも行ないましたが、教授に直接聞きに行く顔を見てもらえたり、分からないことが無いかな聞いてくださったりする上に、学生に話しかけたことにより友人関係が築けたり良い点はたくさんあります。従ってレコーダーは購入しなくても大丈夫です。料理のことに言えば、イギリスで売られているラップはとても粘着力が悪いです。サランラップを渡英前に購入して持参したものが寮の友人たちを感動させました。両親に日本から送ってもらったものの中にカイロがあります。イギリスにも電池式のカイロが売っていましたが、使い捨ての温かいカイロはとても役に立ちました。私の住んでいた寮の

ヒーターがときどき動かないことがあり、寒くて眠れないときにカイロを握りしめて寝ていました。カイロを持って町を歩いているとイギリス人の老夫婦に大きな tea bag を持っているねと言われた時はビックリしました。また、温かい土地出身のブラジル人の友人もカイロに興味津々でした。話のタネにもなって面白かったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

帰国後に TOEIC を受験したところ、スコアが 100 点上がりました。特にリスニングは各クッション全てにおいて9割以上取れるようになっていました。留学前までは人前で英語を話すのは少し恥ずかしい気持ちもありましたが、今では誰の前でもたとえ、間違えたとしても何も気にならなくなりました。語学力のみならず、性格も大いに变化したと思います。留学前までは自分の意志は相手を傷つけるなら何も言わないで自分の中で処理しようと考えていましたが、今では自分の思うことをはっきりと言うようになりました。そのため両親からも性格が変わったと言われるようになりました。そのせいで人を傷つけることもしばしばありますが、意見があっても黙って我慢するということはなくなりました。就活に使われる自己 PR にも意見をはっきり言うことは良いことだとあったのでよくなった点だと信じています。性格面ともう一つ変わったことと言えば、自分の行動一つ一つに責任を持つようになったことです。これまでは、周りに知人がいて助けられて生きていることが当たり前だと考えていました。逃げたくなれば、責任など取らずに逃げることも出来ました。しかし留学先では自分が取る行動すべては自分で何とかしなければならないのだと気づき、日ごろの行いに注意を払うようになりました。良いのであれば YES、嫌なのであれば NO とはっきりさせることで自分自身が何者でどうありたいのかを考えられました。アルバイトばかりの毎日でゆっくりと考えられないことも、考えられて良い機会となりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

年々、留学志願者数が減少していると耳にしました。確かに留学はお金もかかるし、留学に行くまでが面倒かもしれません。しかし、それらを乗り越えれば未だかつてないほどの楽しい留学生活が待っています。日本にいただけでは味わうことの出来ない幸せや悲しみがあると思います。長期間、海外で暮らすことによって外国の嫌な面良い面、それと同時に日本の嫌な面、良い面も目にすることが出来ます。漠然と日本が好き、海外はおしゃれだから好きだけでなく、なぜ好きなのか、なぜ嫌いになったのか理由を持つことが出来ます。日本でアルバイトやサークル、部活動に一生懸命取り組む大学生活もよいと思います。しかし、そこから心機一転勇気を出して新しいことに挑戦することはすごく楽しいものです。私の留学生活は 100%楽しいものであったかと言われればそれは違います。ホームシックになったり、うまく自分の思いを伝えられなかったり悲しいことの方が多かったです。しかし、そんな私の留学生活でも友人との出会いや知らない場所に行くことが出来たり些細なことですが、確実に幸せも感じました。そのおかげで、もう一度留学をしたいと思え

るようにまでなりました。留学に少しでも興味があるのであれば、ためらわずに一步踏み出すべきだと思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

具体的に就職したい企業が定まっているわけではありませんが、英語を毎日使える環境にある会社への就職を希望しています。英語を用いて働けばよいのですが、塾のアルバイトの経験から英語を教えることにも興味があります。説明会などで企業の人事部の方々とお話をすると、筆記試験では良い成績にもかかわらず英語を話すことが苦手な学生が多いと皆さん口を揃えておっしゃっていました。折角、留學生活で自分の意志をはっきり言う自信がついたのだから積極的に英語で話せる力を出していこうと考えています。海外に出張や転勤になっても生活面では困らない自身も今回の留學で得ることが出来ました。就活難といわれている昨今ですが、企業に振られることよりも辛い思いは今回の留學生活で何度も味わったので、へこたれない自信もあります。就職活動が落ち着き次第、リーズに残っている友人を訪ねる予定です。それを励みに就活を乗り切りたいと思います。ときどき、現地で知り合った日本人の他大学の友人と情報交換をすることで近況を報告したり励まし合ったりしています。留學生活で少しスタートダッシュが遅れてしまいましたが彼らと相談し合って助け合うことが出来るので、心強いです。

これは discussion グループのメンバーです。全員とても良い子たちなのですが、discussion になると人が変わったように話し出して何度か嫌いになりそうでした。Discussion のテスト終わりのパーティーでは蟠りもなくなり楽しくお酒を飲んで踊ったりしました。



H. S. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

大学入学前から留学したいという気持ちは漠然ではありますが持っていました。ですが、出願すると決めたのは3回生になる前の春休みです。決断が遅くなってしまったのは、自分が海外で勉強をしたいのか、それとも単純に海外生活を楽しまたいのか、その答えが出ずになかなか出願へと踏み切ることが出来なかったからです。後者なら、別に留学じゃなくても旅行で十分だと考えたからです。加えて英語力に全く自信がなかったため、自分が海外の大学でやっていけると思えませんでした。

一方海外への興味は強まるばかりで、2回生の頃から長期休暇を利用して頻繁に海外旅行をしていました。2回生の夏休みに初めて一人で海外へ行った時、相手が何を言っているかさっぱりわからない上に、全くといっていいほど喋れない自分に驚いたことは今でも鮮明に覚えています。留学なんて絶対無理だ、と確信した瞬間でもありました。しかし、喋れないなりに色んな人と関わることができ、「英語が喋れたらもっと色んな人とお話できて、何百倍も旅行が楽しくなるはず！」と強く思いました。それが動機で英語の勉強を始め、3回生になる前の春休みにどれだけ自分の英語が通じるか試してみたく、アメリカ一人旅を計画しました。そこで英語をコミュニケーションツールとして使えるようになったことを実感し、これなら海外の大学へ行けると考えるようになりました。留学は旅行と違い、あらゆる観点から英語をツールとしてアプローチすることが出来ると思ったことが、留学に魅力を感じた理由です。例えば、専門分野を欧米観点からアプローチできることや、自分がノンネイティブである環境など、留学しなければ経験できないことは挙げだしたらキリがありません。そこに対する好奇心が一気に高まり、3回生の春に次の募集が出たら絶対に出願しようと心に決めました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

本格的に英語の勉強を始めたのは2回生の夏からです。といっても卓上の勉強ではなく、コミュニケーションに重点を置きました。まずは言ってることを理解できなきゃ話にならないと実感したため、リスニングを強化しようとして毎日海外ドラマを字幕なしで観ていました。初めは全くもって理解できず何度もリピートしました。30分のドラマを2時間かけて観ていたぐらいです。一つ言えるのは、海外ドラマは観だすと高確率でハマります。(笑)なので途中からは勉強というより趣味になっていました。あとはスピーキング力をあげたくてネットで Language partner (pen pal) を探してメールのやり取りをし、仲良くなった友達とは Skype で喋る練習に付き合ってもらいました。私の場合は出願を決めたのが3回生の春だったため、そこから TOEFL と IELTS の勉強を始めました。読むのがとにかく苦手

だったのでリーディングに重点を置きつつ、BBC News というアプリで Live Radio を聞いたり、Podcast を使って学術的なジャンルを聞いたりしていました。Podcast は 60 Second Science と BBC を主に利用していました。ライティングについてはネットで検索をかけると使えるようなフレーズがいっぱい見つかるので、書籍よりもネットを参考にしていました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

語学については今まで通りコミュニケーションに重点を置き、海外ドラマとニュースを見続ける日々でした。今思えばもっと語彙力をあげておくべきでした。ビザについては業者を通さず全て自分で手続きを進めました。リーズ大学の場合は残高証明などややこしい書類が不要なので、比較的簡単に進められると思います。とはいえ、用意する書類はたくさんあります。約3週間で申請が終わると言われていますが、私は1ヶ月ほどかかりました。3週間で過ぎてからは、書類に不備があったのではないかと、かなり不安でした。

④ 現地到着後

ロンドンからリーズへ向かうなら、コーチ（長距離バス）が一番安いです。早めに予約すると片道約£10（National express）。しかし、コーチでは4時間近くかかるので、私は2時間半で済む電車を利用しました。イギリスでは早めに予約するほどチケットが安くなります。とくに電車の当日券は半端なく高いので要注意です。時間帯や時期にもよりますが、予約なしの London-Leeds だと£100 超えも珍しくないと思われます。リーズブラッドフォード空港からだと、大学までタクシーで£15 程度でした。バスもありますが、利用したことがないので詳細はわかりません。オリエンテーションは学部によって期間がバラバラです。1日だけという友達もいましたが、私が所属していた Food Science は一週間毎日オリエンテーションがありました。説明や登録等もありましたが、学部全体の懇親会、留学生のみの懇親会があったので、すぐに学部で友達を作ることができました。オリエンテーションでは昼食や軽食が配布されることもありました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

施設はとても綺麗で、1クラスも15人程度だったので環境も良かったです。私が受けていた期間は日本人、中国人、ブラジル人が大半を占めていたように思います。先生との距離がとても近くフレンドリーに接してくれるので、とても良い環境で勉強できたと思います。

◆ 授業内容、課題、試験

アカデミック英語について学びます。週ごとに分野が決められており、Science や Education, Business など幅広い題材を扱いました。私はそれまでアカデミック英語について全く学んだことがなかったため、とくにライティングでは知らないことばかりでした。このままでは正規の授業についていけないと思い、必死でした。毎日何かしらの課題はありましたが、

めちやくちや追われることはなかったように思います。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

設備や環境に不自由を感じたことはありません。パソコンも自習スペースもたくさんあります。テスト前には図書館が24時間オープン、また無料朝食配布など、驚くことばかりでした。正規授業が始まる前には新歓期があり、サークルや部活だけでなくいろんな団体が大学で呼びかけをしています。

◆ 履修科目

・ Modern Urban Journeys: The Nineteenth Century

専攻分野である住環境や都市計画について19世紀を舞台に学びました。先生は日本語を喋れる方で、かつ私の専攻分野だったので、授業外でも少しお話する機会を作って頂きました。

・ Introduction to Colour Science

色彩学も専攻分野で扱うことになるので履修しました。染色の歴史から色の見え方まで幅広く扱いましたが、色彩理論よりも染色分野がメインだったように思います。

・ Food: Origins and Form

乳製品、肉類、魚類といった分類ごとに食べ物について学びました。生産地や加工過程、栄養素など幅広く扱いました。

・ Cognitive Psychology

記憶、言語習得、意識など。実験結果をグラフと共に提示されることが多く、授業は聞いていてとても興味深かったです。

・ Traditional Alcoholic Beverages

グループワークとしてビール醸造がありました。自分達でレシピを用意し、計画を立てます。グループミーティングは必須ですが、面白い授業でした。参加自由のフィールドトリップもありました。

◆ 授業、レポート、定期試験

私はエッセイが苦手だったため、テスト中心に授業を選択しました。しかし、結局はテストがエッセイ形式(持ち込み不可)だったりするので、これを基準に選ぶのはおすすめしません。セミナーでは毎週グループに分かれてトピックについて討論し、全体の前で発表するというパターンが多かったです。レクチャーの内容理解をより深めることができるので、セミナーは取ってよかったと思います。とくに留学生である私のワークはイギリス人と違う視点だったようで、興味深いとよく言ってもらえました。授業は1コマ1時間です。時間割上では休憩がないので移動時間について不安に思っていたのですが、ほとんどの授業は5分遅れてスタートし5分早く終わらせてくれます。ですが校内は広いので、移動が間

に合わないこともあります。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

サークル：Japanese society という日本語を勉強している人や日本に興味のある人、そして日本人で構成されたサークルに入っていました。といってもたまたまイベントに顔を出す程度で、あまり参加はしていませんでした。日本に興味ある人の集まりなので、行けば必ず友達はできます。

クラブ：Ultimate Frisbee に所属していました。アルティメットは私の留学生生活を占めた要素 TOP3に入ります。基本的に練習は週に3回ですが、試合前になると増えます。フリスビーの投げ方すら知らないほどの初心者だった上に、部員はイギリス人がメインなので初めは中々打ち解けることが出来ませんでした。日本人など東アジア出身が他にいなかったの、練習へ行き続けることで存在はすぐに覚えてもらえたと思います。試合に出たことで、本当にチームメイトと一丸になれた気がしました。それ以降は留学生ではなく、チームメイトとして認識してもらえるようになり、チームの一員として認められたことが本当に嬉しくて、そこからはもうルームメイトにも驚かれるほどアルティメットな日々を過ごしていました。スポーツは国境を越える、と肌で感じました。私は中学校からテニスをしていたので本当はテニスに入るつもりでしたが、結果的にチームプレーを選んで正解だったと思います。リーズ大学には魅力的な文化部もたくさんありますが、私はスポーツ系の何かに所属することを本当におすすめします！

⑧ 現地での住まい

語学研修期間は Montague Burton、セメスター中は Henry Price に住んでいました。どちらもフラットメイトは留学生のみでしたが、同じような境遇だからこそ仲良くなれたのだと思います。とくに Henry Price は学内にある寮なので、本当に便利でした。Montague Burton では5人でシャワーをシェアするので、しょっちゅう髪の毛が詰まり大変でした。外食は高いので自炊を心がけていましたが、週末にはフラットメイト皆で外食することもありました。また、誰かが全員分の料理を作るフラットディナーを不定期ですがよく行っていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

冬休みは、ヨーロッパ人フラットメイトはみんな自国へ帰ってしまいます。私は8人フラットでしたが、うち6人がヨーロッパ出身だったので冬休みは驚くほど静かでした。ヨーロッパ出身のフラットメイトが実家へ遊びにおいでと誘ってくれたので、フラットメイト唯一のアジア人であるシンガポール人と一緒に、オランダ人とベルギー人のフラットメイトの実家へ遊びに行きました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

余計な不安を抱きたくなかったので、就活サイト等は一切見ませんでした。ただ、「何を聞

かれても自分の経験を元に話すことができるよう、とにかく人と違う経験値を積むこと」だけは念頭に置いていました。もしかしたら今後英文履歴書を書く可能性があるかもしれないと思ったので、リーズのキャリアサポートセンターで履歴書の書き方などの資料だけは貰いに行きました。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

フラットメイトと過ごす日々がとても楽しかったです。みんな夕方までは各自勉強しているのですが、その後は自然とキッチンへ集合しテーブルを囲んでご飯を食べ、映画を見たりお喋りしたり。勉強は夜型派だった私ですが、みんなと一緒に過ごしたいがため昼型に変えました。気分が晴れないときや集中できないとき、とりあえずキッチンへ行ってみると誰かがいる、そんな何気ない日々の時間がとても楽しかったです。最も思い出に残っていること…一つに絞るのは難しいですが、ひとつはフラットメイトの実家を巡るヨーロッパ旅行です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

正直、つらいと感じたことはありません。苦勞したことはアルティメット入部当時、周りのメンバーと全然馴染めなかったことです。ネイティブの会話スピードについていけず、相手にされないことも多々あり、何度も心が折れました。もう練習へ行くのをやめようかな、なんて思ったこともありました。(笑) それでも声をかけてくれる人は数名いて、そして練習へ行けば行くほどその輪が少しずつですが広がっていくのを実感でき、それが楽しくて気が付けば周り一緒に楽しくプレーしている自分がいました。何度も心が折れた分、留学生ではなくチームメイトとして認識されるようになったと感じたときは、本当に嬉しかったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

ベジタリアンや宗教上の理由などで食制限を持つフラットメイトが多かったので、皆へ料理を振る舞う際は本当に色々考えました。また、仲の良い友達の中には同性愛者も数人いたので、それを知ってからは「Do you have a boyfriend?」とは聞かないようにしていました。特別驚いたわけではありませんが、今までにそういった会話をするのがあまりなかったのが新鮮でした。本当にいろんな人がいるので、話していてとても楽しかったです。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大きい大学なので、Student union 主催のイベントが本当にたくさんあります。とくに give it a go(GIAG)は毎日何かしらあるので、暇なときは参加していました。もちろん大学には日本人もいっぱいいますが、それ以上にイギリス人そして世界各国からの留学生が溢れて

います。そのうえ、人と関わるきっかけを大学がたくさん用意してくれています。なので、自分の行動次第でどんな環境でも作っていくことが可能だと思いました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは絶対に必要だと思います。あと、洗濯乾燥の両方を使うとかなりお金がかかってしまうので、時々部屋干ししていました。日本から持って行った部屋干し用の洗剤（部屋干ししても匂いが気にならないもの）がとても役に立ちました。S字フックと洗濯バサミも便利です。それから旅行を考えている人は、ロッカー用のロックを持っておくと良いかもしれません。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

一番変わったと実感している点は、自分に自信を持てるようになったことです。語学力に関してはこれから試験を受ける予定なのでまだわかりませんが、英語環境でも抵抗なく輪に入っていきけるようにはなりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

環境はいくらでも自分で変えられる、ということ覚えておいてほしいです。それから、留学中は日本人といろいろ情報交換することも多いと思いますが、人の話を鵜呑みにするのではなく、自分で確かめることが大切だと思います。例えば、サークルや部活動に関して留学中の日本人から色々な情報を耳にしたいと思います。聞いただけの情報に流されるのではなく、自分で足を運んで確かめるべきだと感じました。サークルだけに限らず、留学中は人伝えで情報を集めるのではなく、自ら経験して情報を集めるほうがよっぽど良いと思いました。現地で外国人の友達を作りたいという思いが強い人は、とにかく GIAG にたくさん参加することをお勧めします。あと、相手の名前を覚えることは結構プラスになると思います。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

これから就職活動を進めていく中でどう変化していくかはわかりませんが、現時点では日系企業に就職して世界を舞台に活躍できる人間になりたいという思いが強いです。もともと「海外で働きたい！」という意思がとても強かったのですが、今回イギリスで過ごしてみて、自分の能力を最大限に生かせるのは自分の生まれ育った場所だと実感しました。その上で、今回の留学経験で得た相互理解や英語環境への対応力を持ち駒として生かせるような社会人になることが目標です。

みんなのお気に入りレストラン、ECCO！イタリア人も絶賛するほどのピザ屋さんです。ルームメイトとよく行った思い出の場所。巨大ピザをハーフハーフで頼むと安くなるので、食の好み合う友達とシェアして食べていました。



アルティメットフリスビー、私は 3rd チームで試合に出させてもらいました。これはチームメイトとの写真です。ちなみに 1st チームはこの大会で3年連続優勝！



K. N. 英語英文学科・3 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

私が留学したいと思い始めたのは中学生の頃でした。英会話を習っていたこともあり、海外に興味があったからです。また、ある映画を見て、イギリスの世界に憧れを感じ、いつか必ずイギリスに行きたいと願っていました。中学を卒業し、高校に入学する前の春休みに、オーストラリアへ 10 日間ほどホームステイをするプログラムに参加しました。これを機に、さらに留学への思いが強まり、大学でイギリス留学することを決意しました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学での一番の目標は留学することでした。まずは大学の授業で良い成績をとることが大切だと思い、授業に真面目に取り組みました。今思うと、その小さな積み重ねが実り、留学につながったと考えています。また、幼いころから通っている英会話を続けていました。時間があるときには、BBC や TED を活用した自主学習にも取り組みました。

大学から、国際交流を主とした学生団体に所属しました。様々なプログラムがあり、それらのいくつかに参加し、留学生と交流しながら、楽しく英語を学ぶことができました。

出願期間の数か月前から、IELTS の試験勉強に励みました。参考書を主に学習したり、IELTS を受験したことがある先輩に相談したりしながら、モチベーションを高めていきました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

留学が決まってからは、留学先の治安や生活環境などの情報を調べました。英語学習にも励みましたが、一番時間を割いたのは、留学先で受講する授業内容に向けた学習でした。まずは日本語で基礎知識をつけ、専門用語の単語を英語で覚えたり、英語の簡単な教科書を読んだりしながら、学習しました。

ビザ申請や荷造りには時間がかかりましたが、留学での生活を想像して、楽しみながら取り組みました。

④ 現地到着後

羽田空港からロンドンまでの直通便を利用しました。オリエンテーションが始まるより 1 週間ほど前に到着したので、ロンドンで 5 日間観光をしてから、ロンドンからリーズまで電車で移動しました。

寮のスタッフの人たちが親切に案内してくれたので、オリエンテーションや大学での最初の手続きをスムーズに行うことができました。大学のオフィスのスタッフや先生たちもとても親切に接してくれ、トラブルなく行うことができました。

⑤ 語学研修期間

◆ **語学研修先の施設・環境について**

大学内の施設を使っていたので、大学の雰囲気を楽しみながら学習することができました。とても清潔で快適な空間でした。

◆ **授業内容、課題、試験**

大学での正規授業を理解するのに必要なアカデミックな英語知識を学びました。エッセイやレポートなどの書き方、参考文献の書き方、文献の読み方、リスニングのコツ、プレゼンテーションやグループディスカッションの取り組み方など、実践しながら学びました。課題はほぼ毎日あり、リーディングやエッセイの課題が多くありました。授業が終わってから時間はたっぷりあったので、放課後に課題や予習復習をして過ごしていました。

⑥ **正規科目履修期間**

◆ **大学の施設・環境について**

キャンパスがとても広く、学内にいくつかのバーやカフェ、図書館があり、施設はとても充実していました。図書館には本が豊富で、パソコンも多く設置してあったので、学習するには最適な環境でした。

◆ **履修科目**

将来の仕事に関することを学びたいと思ったので、教育学部の授業を履修しました。

・ **Second Language Acquisition and Learning**

第二言語習得についての授業でした。効果的な言語学習方法やそれに関する様々な仮説について学びました。

・ **Language Description for Education**

ネイティブスピーカーではない英語学習者に、どうすれば解かりやすく文法や発音などの言語の仕組みを教えることができるか、ということについて学びました。

・ **How Children Learn and Adults Help**

学習のメカニズムについてや、子供を教育する上で大切なことについて学びました。

◆ **授業、レポート、定期試験**

授業の課題はリーディングと復習が多かったです。次の授業までに読まなければいけない量が莫大だったので、時間が多くかかりました。

私が履修した科目の試験はすべてエッセイでした。それぞれが 3000~4000 words のエッセイを書かなければならず、そのための文献集めから始めなければいけなかったのも苦労しました。

⑦ **クラブ、課外活動、ボランティア活動**

Society という、日本でいうサークルの数が豊富でした。毎週イベントがあり、それを通して現地の友達や、留学生の友達を多く作ることができました。

私は Japanese Society、East Asian Society、Yoga Society、Tea Society に参加しました。

イベントに関係なく、プライベートで遊ぶ友達がたくさんできました。充実した留学生活を送ることができたのも、このような大切な友達がたくさんできたからだと思います。

⑧ 現地での住まい

語学研修中は Montague Burton という寮に住んでいました。トイレ・シャワー、キッチンフラットメイトと共有でしたが、みんな仲が良かったので、快適に過ごすことができました。新しい寮ではなかったですが、キャンパスに近く、小さなスーパーも近くにあったので、便利でした。

正規科目履修期間は Liberty Dock という寮で暮らしました。キッチンはフラットメイトと共有でしたが、トイレやシャワーは部屋についていました。学校まで歩くとやや遠かったですが、キャンパス周辺とは違った趣のある雰囲気、駅やバス停、シティーセンターに近く、過ごしやすい環境でした。

⑨ 長期休暇の過ごし方

ホリデー中はイギリス内やヨーロッパを旅行しました。国内だとバスで安く行くことができ、ヨーロッパでも飛行機ですぐに行けるので、旅行費を節約しながら色んなところで観光を楽しむことができました。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学中は留学でしかできないことをしないと損なうと思ったので、就職活動は全くしませんでした。そのため、学習の面でも、思い切り留学生活を楽しむことができました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

一番感動したのは、初めてピックアップバスを見た時です。ロンドンには長年夢見た憧れの地であり、観光地が溢れているので、何度行っても飽きない場所でした。

大学での正規授業についていくのは大変でしたが、毎日学習しているうちに勉強が楽しくなりました。一人暮らしなど、初めてなことが多かったですが、英語以外での成長に気づいたときは嬉しく感じました。

留学中に会った人たちとの思い出はすべて宝物です。帰国前に、さみしいと言ってくれる友達がたくさんできたことを実感したとき、幸せを感じました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

最も苦勞したことは、エッセイの試験でした。書く内容を集めるため、本を探すのに時間がかかり、それらを読むのにも時間がかかり、まとめてエッセイを書くのにも時間がかかり、頭がパンクしそうでした。しかし、そのおかげで大分力がついたと思います。今までしたことのない寮をこなしたので、自信がつき、いい経験になりました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

様々な国から多くの留学生が集まっていたので、異文化に触れる機会が多かったです。ステレオタイプが覆されたり、お国柄を感じる事があったり、視野が広がりました。同時に、日本の良さや、日本が見習うべきことが見え、貴重な経験ができました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

悪かった点は特に思い当たりません。一番の良い点は、世界中から留学生が集まっていたことです。色々な国の学生と話すたびに、新しい発見があり、文化や価値観の違いを知ることが面白かったです。また、大学側からの授業や試験のサポートが手厚く、不安も解消されました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

ノートパソコンを持っていきましたが、携帯電話は持っていかず、現地でトップアップ式の小さい携帯電話を買いました。日本からのお土産をいくつか持って行ったのですが、とても喜んでくれました。冬は寒いので、カイロをたくさん持って行ったのは正解でした。自炊する予定であれば、インスタントの味噌汁のようなごはんを持っていくと便利だと思います。生活必需品はたいてい安く手に入るなので、荷物を減らすためにも、現地での購入がおすすめです。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

ネイティブの話す英語は早く感じるので、リスニング力が上がったと思います。読み書きの量も莫大だったので、リーディング力とライティング力もともに向上しました。約7ヶ月間だったので、スピーキング力は大幅に上がったようには感じませんが、英語を話す抵抗はなくなり、留学前よりは言いたいことをより伝えられるようになったと思います。映画を字幕なしで観られるようになったときはとても嬉しかったです。

留学を通し、英語力はもちろん上がりましたが、自立心や家事をこなす力も養われました。困難にぶつかったり、異文化に触れることで精神面でも大きく成長したように感じます。多少のことではくじけない忍耐力も身に付きました。価値観や考え方が広がり、ためになる経験がたくさんできました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

自信がなかったり不安だったりするかもしれませんが、留学できるチャンスがあるなら、挑戦してみてください。何事もポジティブに取り組み、とにかく楽しめば、素敵な思い出がたくさんできると思います。壁にぶつかったときは、まず行動してみることが一番の解決策です。新しい場所で輪を広げてきてください。応援しています！

Ⅳ. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

外国人と関わることができ、英語を活かせる仕事に就きたいと思っています。観光客をおもてなしするような環境や、留学先で学んだ教育や言語学習の知識を活かせる環境で働けることを望んでいます。

初めてビッグベンを見た時に撮った写真です。このときの感動は今でも忘れられません。



クラスメイトで一番仲の良かった友達とリーズのとなりにある街、ヨークに行った時の写真です。色んなところに一緒に出掛けた思い出は宝物です。

A. K. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

大学に入った頃から留学については考えていました。1回生の段階では出願基準を満たせていなかったため2回生で出願しました。どの国のどの大学に出願するかは最後の最後まで悩みましたが、その結果、本当に行きたい場所を選ぶことができましたと思います。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

大学受験の時に使用していた本や、TOEIC対策の本などで勉強しました。普段の大学の授業で知らない単語を書き留めて覚えていくだけでも英語力は伸びると思います。

③ 留学決定から出発までの準備期間

語学勉強については、単語を覚えたり、洋画をみたりしていました。ビザ申請手続きは、イギリスの場合ややこしくて時間がかかると聞いていたのですが、私の場合は専門の業者の方をお願いして、とてもスムーズに進みました。CASが届いたのがギリギリだったので渡航に間に合うかどうか不安でしたが、業者の方が迅速に対応してくださったので無事に間に合いました。

④ 現地到着後

KLM航空を使ってアムステルダムで乗り換え、リーズ・ブラッドフォード空港を利用しました。リーズ・ブラッドフォード空港は小さい空港なので厳しい入国審査もなく、荷物を受け取ったらすぐに外に出られます。寮までは空港の外にある黄色い建物でタクシーを呼びました。リーズの学生が多く利用するので、行き先は寮の名前を言えばわかってくれます。空港から寮まで£20くらいで、道が混んでいなかったため20分ほどで着きました。私は語学学校が始まる4日前くらいに渡英したので、のんびり生活必需品などを近くのスーパー（MORRISONS、TESCOなど）で揃えていました。諸手続きは語学学校初日に学生証を作るための簡単な登録やリーズ大学のクリニックに登録しに行ったりしました。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

教室やラウンジは綺麗でしたし、Parkinson Buildingにある図書館がとても綺麗でお気に入りでした。語学研修期間中は基本的に留学生しか大学にいないので、人も少なく大学も街も静かな感じでした。Term3はアラブ系の留学生が半数以上いて、留学に来なければ出会えなかった人々や文化に触れられたので貴重な時間だったと思います。Summer 10 weekはブラジル人がたくさん来ました。ブラジル人はアラブの子たちよりパーティー好きな感じだったので、授業がTerm3よりも賑やかに感じました。あとはこの時期の方が留学生向けのイベントが充実していました。

◆ 授業内容、課題、試験

Term3 の授業はアカデミックな内容ではなかったのですが、課題も少なく、少し退屈な気もしました。エッセイは内容が難しかったのと、アカデミックなやり方に戸惑い少し大変でしたが、先生方が個人面談でアドバイスをくれる機会があったのでよかったです。Summer 10 week はアカデミックなものに内容がかわりました。特にアカデミックエッセイの書き方を理解することができたので、9月からの正規授業に役立ちました。課題は Term3 よりは増えましたが、それほど多くはなかったです。試験は Term3 より簡単でした。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学の敷地がとても広いので授業初日は教室を探すのに苦労しました。授業で使われる Power Point のスライドはパソコンや携帯から見る事ができたので予め知らない単語を調べたり、授業後に確認できたりしたのでとてもよかったです。

◆ 履修科目

・ Introduction to Psychology

心理学の入門の授業です。もともと知っていた知識もありましたが、英語での表現方法を知ることができ面白かった反面、専門用語が多く難しく感じました。試験は 1 時間の選択問題の試験 1 つですが、試験内容は授業で扱ったものよりも教科書から出ている問題が大半だったので、難しかったです。

・ Japan: History and International Politics

日本の歴史を時代背景や国際関係、重要人物を通して分析する授業です。先生がとても熱心な方で、私の知らない日本のことをたくさん知っていました。週 1 回の授業とセミナーが 3 回あり、グループプレゼンも 1 回ありました。試験は 1500 字のエッセイ 1 つと 2 時間で 2 問に答える論述試験が 1 つでした。エッセイや試験のために、日本の歴史について英語で書かれている本をたくさん読めたので面白かったです。

・ Sociological Analysis

グローバル化する現代社会について学びました。レクチャーとセミナーが週 1 回ずつありました。セミナーを受ける前に参考文献を 2 つ以上読み、オンラインテストを受けなければいけません。試験は 2500 字のエッセイが一つでした。3 つ以上の分野について書かなければいけなかったのですが、参考文献を大量に読む必要があり、大変でしたが内容が興味のあるものばかりだったので楽しんでできました。

・ Social and Cultural Worlds of Childhood and Youth

絵本やアニメ、おもちゃなど子どもたちが魅力を感じるものについて分析する授業でした。1 回の授業が 2 時間ありましたが、内容がとても興味のあるものだったので毎週あつという間に感じました。授業はペアワークが多いので自然と友達も増えました。試験は 3000 字

のエッセイ1つでした。自分が選んだ題材が子どもたちやその親にどんな影響を与えるのか、また、その作品の中で子どもや親はどのように描かれているのかを分析するというもので、とても面白かったです。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Japanese Society や International Club、Global Café などに参加して留学生や現地の学生と交流していました。あとは日本語学部の3回生と4回生のディスカッションの授業に参加させてもらっていました。日本についてのトピックについての現地の学生の意見がたくさん聞けてとても貴重な体験だったと思います。International Club は留学生と地域の方々との交流会みたいなもので、そこで仲良くなった方に車がないと行くことができない、イギリスらしい田舎町や伝統的なパブに連れて行ってもらったりしました。家にも招いていただき、みんなでバーベキューをしたり、のんびりテレビでスポーツ観戦をしたりして、ホームステイのような体験をさせていただきました。

⑧ 現地での住まい

10ヶ月間で2回引っ越しました。4月～8月は Leodis Residences に住んでいました。Receptionの方が親切でフレンドリーでした。学校までは10分弱だったので便利でしたが City Centre までは30分くらいかかり、駅までは50分弱かかるので少し不便でした。小さいコンビニのようなお店は学校の近くや寮から5分くらいのところに2件あるのですが、値段が高いたのでたまにしか利用しませんでした。9月の初めの2週間は Henry Plice に住んでいました。Leodis から15分～20分くらいだったので友達に手伝ってもらいながら何往復もして引っ越しましたが、とても大変でした。私は改装していない方の建物だったので、トイレとシャワーが隣の部屋の人と共用なのに鍵がついてなくて不便でした。あと、隣の部屋の声や物音がよく聞こえるのが嫌でした。でもベッド下の収納が多く、机が広いところはよかったです。9月の中旬～1月までは Central Village に住みました。すごく新しい寮で、City Centre と大学の真ん中にあるので、何よりも立地がとてもよかったです。あとは寮の敷地内に小さいスーパーがあってとても便利でした。部屋は防音で隣の部屋の声は聞こえませんが、廊下でしゃべっている声はとてもよく聞こえるので、音楽を流していないイヤホンで耳栓代わりにしながら勉強していました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

Term3 終了後の1週間は、オランダ、ベルギー、フランスをまわり行きました。Summer 10 week 終了後は北アイルランドとアイルランドに行きました。Christmas Holiday はドイツ、チェコ、オーストリア、ハンガリーに行きました。その他にも語学研修期間中は余裕があったので週末にスコットランドやイギリス国内を旅行していました。今まで旅行には興味なかったのですが、格安航空やバックパッカーズ hostel などを利用して、新しい世界を見ることができたのでとてもいい経験になったと思います。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

自分の興味のある企業の採用情報などを調べたりしていましたが、特に何もしなかったです。英語力を上げて帰ることばかり考えていました。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

思い返すとすべてが楽しかったです。いい思い出ですが、イギリス人の友達のお姉さんの結婚式に招待してもらったことがとても印象に残っています。イギリスの結婚式なんてもう経験できないと思うのでとても貴重な体験でした。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

10 ヶ月間ホームシックにもならず、課題ももっと多くて大変だと思っていたのですが、きちんと計画性をもってすればこなせる量でした。英文ばかり読みすぎてもう嫌になった時もありましたが、好きな映画をみたり音楽を聴いたりして、自分のペースでオンオフをしっかりとって頑張るようにしていました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

本当にみんな紅茶をたくさん飲むこと。クラブがたくさんあり (学内にも)、みんな行く頻度がとても多いこと。お店の閉店時間が早いこと。食器を洗った後の泡をながさずに乾かすこと。賞味期限の切れていないヨーグルトのふたを開けたらカビが生えていたことなど驚いたことはたくさんありました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

City Centre が大きいこと、イギリスの真ん中にある街なのでいろんな場所に行きやすかったこと、IELTS の基準をクリアすればいろんな学部の授業が履修できること、寮が一人部屋なところが良かったです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコン (壊れた友達が 2 人いたのでなるべく新しいパソコンの方が安心かもしれません)、携帯 (わたしは休止状態で持っていきましたが、解約して SIM Free の状態で持つのも便利だと思います)。デビットカードは旅行先でも現地通貨を ATM から引き出せるのでとても便利でした。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

英語力は全体的に上がりました。留学前が英語を使うことに対する不安や躊躇があったのですが、私の英語は伝わるという体験がたくさんできたので自信ができました。あとは、なにかハプニングがあっても自分で交渉して解決するしかないなので度胸と問題解決力がつ

いたと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

今まで知らなかった場所にいたり、人に出会ったりすることで、気づくことがたくさんあります。留学に少しでも興味があるなら、不安もあると思いますが挑戦してみてください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を使う仕事や英語教育の仕事に就きたいと考えていますが、どんな仕事についても、個人的に英語には関わっていこうと思っています。



友達の家でチョコレートフォンデュをしたときの写真です。